

平成24年1月31日
海事局外航課

2011年の日本関係船舶における海賊等事案の状況及び 世界における海賊等事案の状況について

1. 2011年の1年間に日本関係船舶（日本籍船及び我が国の船舶運航事業者が運航する外国籍船）が海賊等（海賊及び海上武装強盗）から受けた被害の状況について、我が国の外航海運事業者等からの報告を基に、以下のとおりまとめました。

[概要]

(1) 発生件数

日本関係船舶で、2011年に海賊等の被害（単に船舶に乗り込まれたものを含む。）を受けた船舶は11件（前年：15件）ありました。

(2) 発生場所

東南アジア周辺海域で9件（前年：9件）、インド洋及びアフリカ周辺海域で2件（前年：6件）の事案が発生しました。

(3) 被害状況

航行中の船舶が小型船から重火器らしきものによって発砲を受け、船体に被弾、追跡を受けるという事案が、紅海で1件発生しました。この事案では、同船の回避操船によって海賊の追跡を振り切っています。また、インド洋では、航行中に乗り込まれたものの、現場に展開する米軍が海賊を拘束するという事案が1件発生しました。

東南アジア等においては、錨泊中又は着岸中に発生した軽微な事案となっています。

被害にあった船舶について、船籍別の内訳は、パナマ籍9隻、バハマ籍1隻、日本籍1隻でした。

2. 国際海事局（IMB）から、2011年の世界における海賊等に関する年次報告書が2012年1月19日に発表されました。同報告書の概要については、別添4及び別添5をご覧ください。

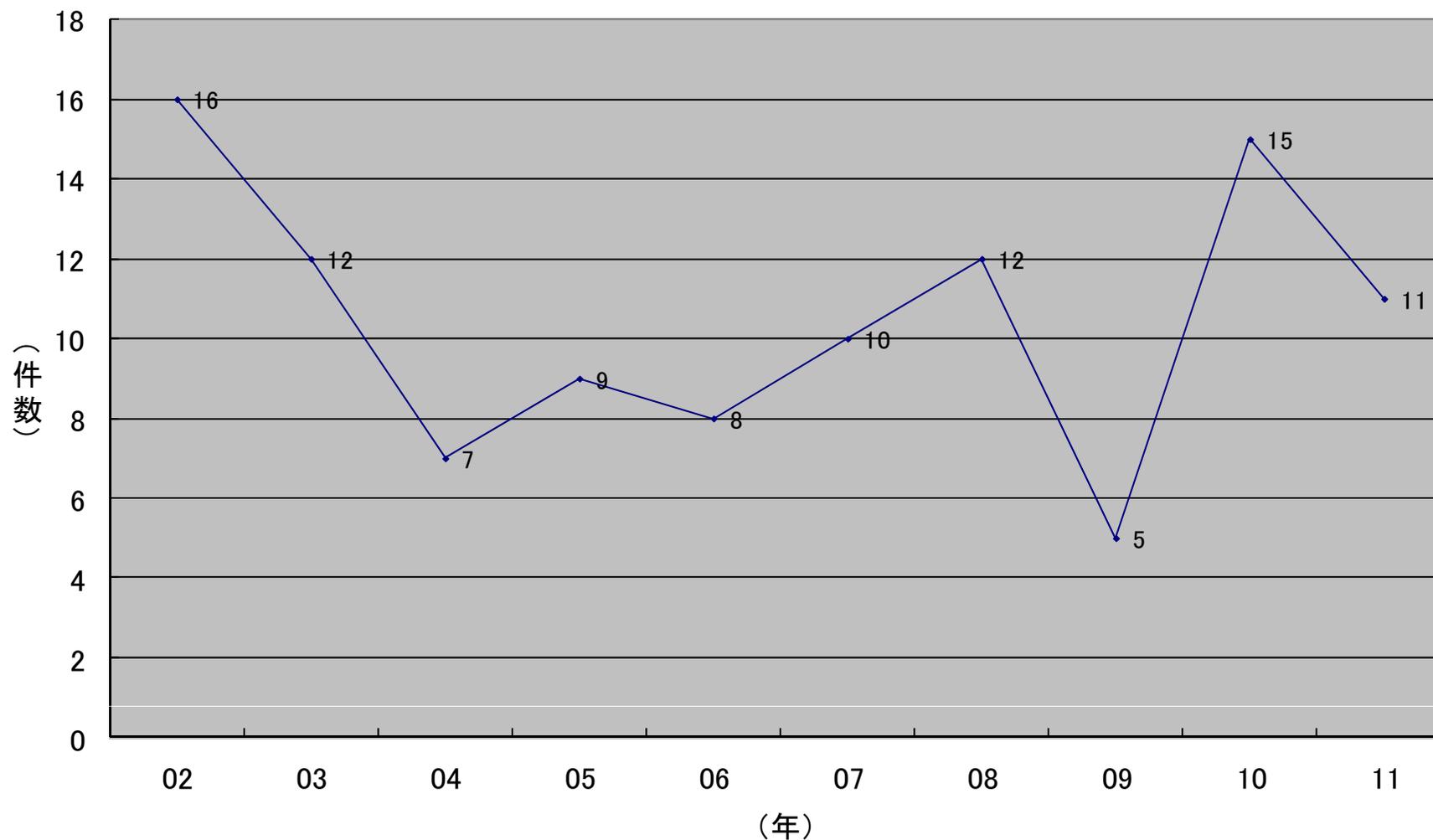
[参考]

- ・日本関係船舶における海賊等事案の発生件数の推移【別添1】
- ・日本関係船舶の海賊等事案発生状況について（2011年）【別添2、3】
- ・世界における海賊等事案の動向【別添4】
- ・世界における海賊等事案の発生件数の推移及び海域別の発生状況【別添5】

連絡先：海事局外航課 小森、池田

TEL 03-5253-8111（内線43303、43366）
03-5253-8932（直通）

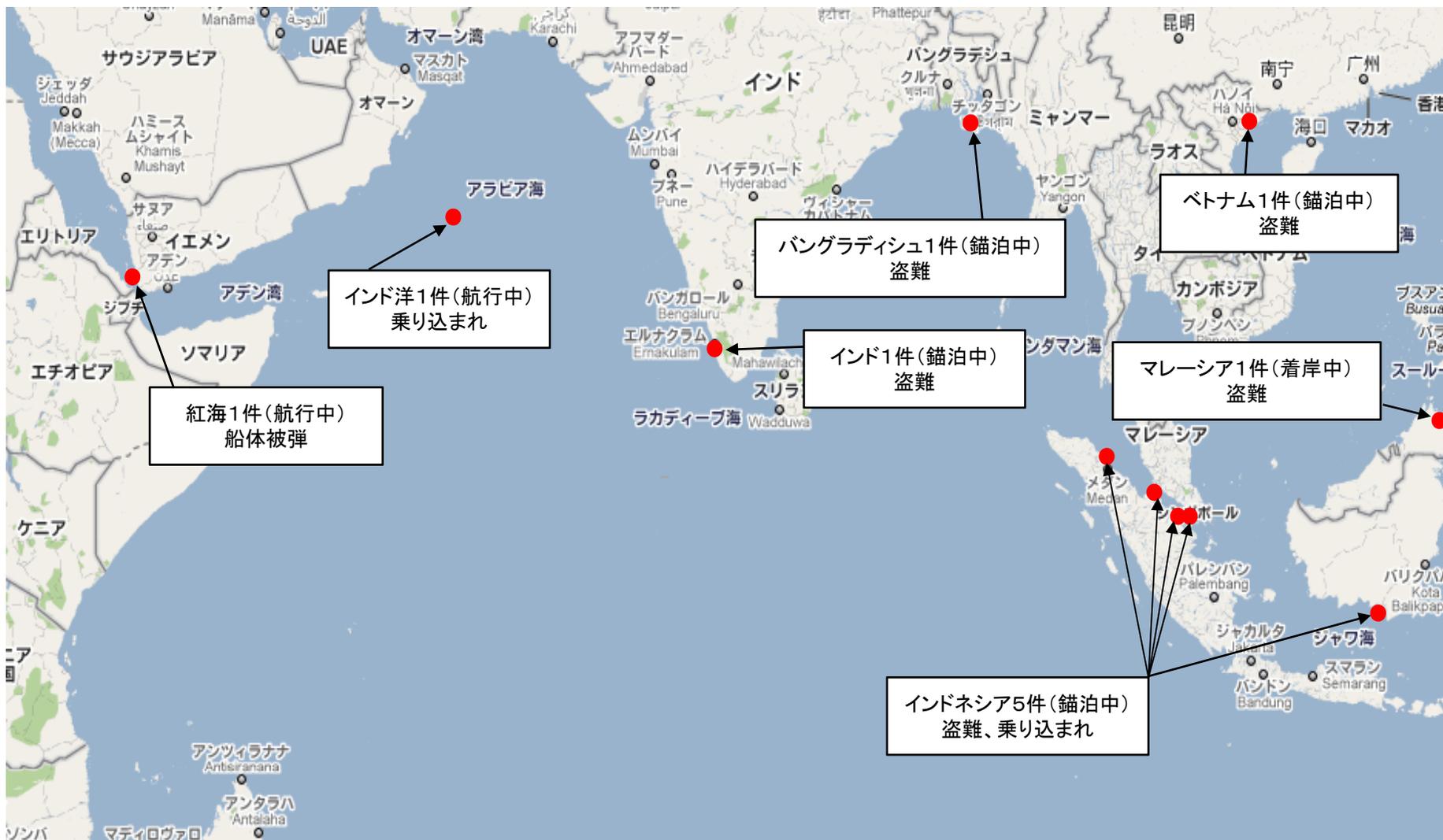
日本関係船舶における海賊等事案の発生件数の推移



注) 計上されている海賊等事案の発生件数は、人的被害、金品の被害及び船体の被害等の実害が発生した事案のほか、単に船舶に乗り込まれた事案を含めた数となっています。船舶に対して直接的な接触がなかった未遂事案については、発生件数に含まれていません。

なお、この発生件数は、外航海運事業者等から任意に提供された事案のみを計上したものです。

日本関係船舶の海賊等事案発生状況について(2011年)



日本関係船舶の海賊等発生状況について(2011年)

別添3

※ 日本関係船舶：日本籍船及び我が国の船舶運航事業者が運航する外国籍船

番号	被害日時 (日本時)	被害場所	概要	被害	船籍	総トン数	船種	乗組員	積荷
①	2月19日 03:00頃	インドネシア タボネア港錨地	錨泊中の窃盗事案	係船ロープ (船員にケガなし)	パナマ	39,996トン	バルクキャリアー	21名(日本人8名、フィリピン人13名)	石炭
②	2月21日 23:00頃	バングラティシュ チッタゴン港錨地	錨泊中の窃盗事案	係船ロープ (船員にケガなし)	日本	28,480トン	タンカー	23名(日本人10名、フィリピン人13名)	燃料油
③	3月5日 21:00頃	オマーン沖	航行中の乗り込まれ事案	機器類の損傷 (船員にケガなし)	バハマ	57,462トン	タンカー	24名(クアチア人2名、モンテネグロ人2名、ルーマニア人2名、フィリピン人16名)	燃料油
④	3月7日 06:00頃	ベトナム カイラン港錨地	錨泊中の窃盗事案	係船ロープ等 (船員にケガなし)	パナマ	39,385トン	チップ船	21人(フィリピン人4名、ミャンマー人17名)	なし
⑤	3月26日 07:15頃	インド コーチン港錨地	錨泊中の窃盗事案	係船ロープ (船員にケガなし)	パナマ	28,059トン	タンカー	21名(韓国人4名、フィリピン人17名)	燃料油
⑥	8月9日 01:01頃	インドネシア ドゥマイ港錨地	錨泊中の乗り込まれ事案	なし (船員にケガなし)	パナマ	57,943トン	タンカー	24人(日本人9名、フィリピン人15名)	なし
⑦	8月18日 07:45頃	インドネシア ベラワン港錨地	錨泊中の窃盗事案	無線機 (船員にケガなし)	パナマ	16,232トン	ケミカルタンカー	21人(韓国人10名、中国人11名)	植物油
⑧	9月9日 00:48頃	インドネシア ニパ港錨地	錨泊中の乗り込まれ事案	なし (船員にケガなし)	パナマ	41,825トン	タンカー	22人(ルーマニア人2名、フィリピン人20名)	燃料油
⑨	9月9日 05:30頃	インドネシア カリムン港錨地	錨泊中の窃盗事案	救命浮環 (船員にケガなし)	パナマ	13,292トン	ケミカルタンカー	22人(船員バングラディシュ人)	石油化学製品
⑩	9月28日 21:30頃	紅海	航行中の追跡事案	船体に被弾 (船員にケガなし)	パナマ	16,222トン	ケミカルタンカー	24人(船員バングラディシュ人)	化学製品
⑪	11月14日 04:50頃	マレーシア サンガタン港	着岸中の窃盗事案	ペイント缶 (船員にケガなし)	パナマ	7,215トン	ケミカルタンカー	21人(全員フィリピン人)	植物油

◆ 世界における海賊等事案の動向

国際商業会議所（ＩＣＣ）の国際海事局（ＩＭＢ）が１月１９日に発表した年次報告書によると、２０１１年に世界で発生した海賊等事案の件数は４３９件と前年に比べ６件減少しました。

ソマリア海賊の攻撃は、主にアラビア海とアデン湾に集中しています。被害発生件数は２３７件と前年に比べ１８件増加しましたが、ハイジャックされた船舶隻数は２８隻と前年に比べ２１隻減少しました。これは、各国海軍の警備とシタデルや民間武装警備員の使用を含めた商船側の防御策の成果によるものです。しかしながら、ソマリア海賊により４７０名の船員が人質となり、８名が殺害されています。被害地域の内訳については、アラビア海を含むソマリア沖で１６０件、アデン湾で３７件、紅海南部で３９件、オマーンで１件となっています。

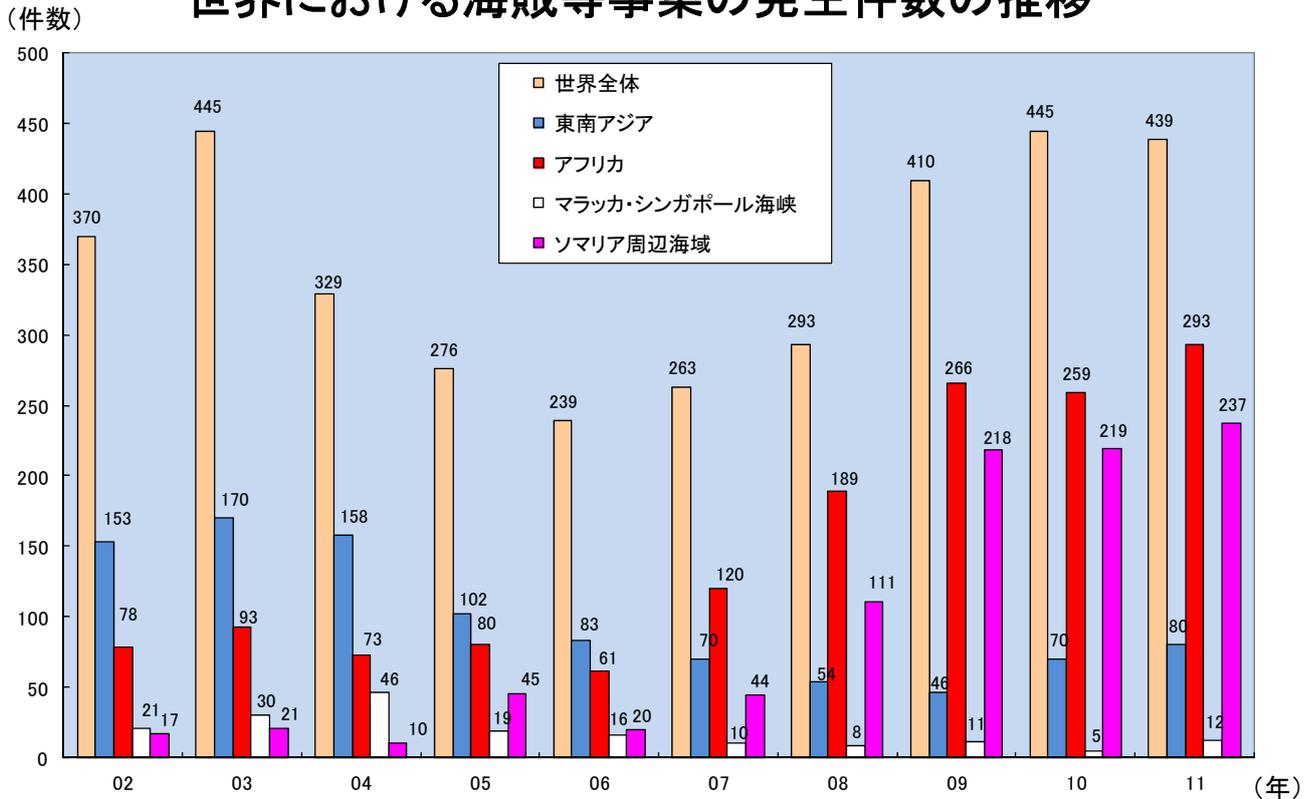
アフリカのその他の海域では、ナイジェリアからベナンにかけて武装強盗被害が発生しています。暴力的ではありますが、ハイジャックされた場合でも、ソマリアの海賊と比較して、拘束期間は約１０日間と短い傾向があります。

東南アジアの海賊等被害件数は８０件となっており、前年より増加しています。特にインドネシアでは４６件と、２００７年以降最も高い件数となっており、その殆どが錨泊中の船舶に乗り込まれた事案となっています。

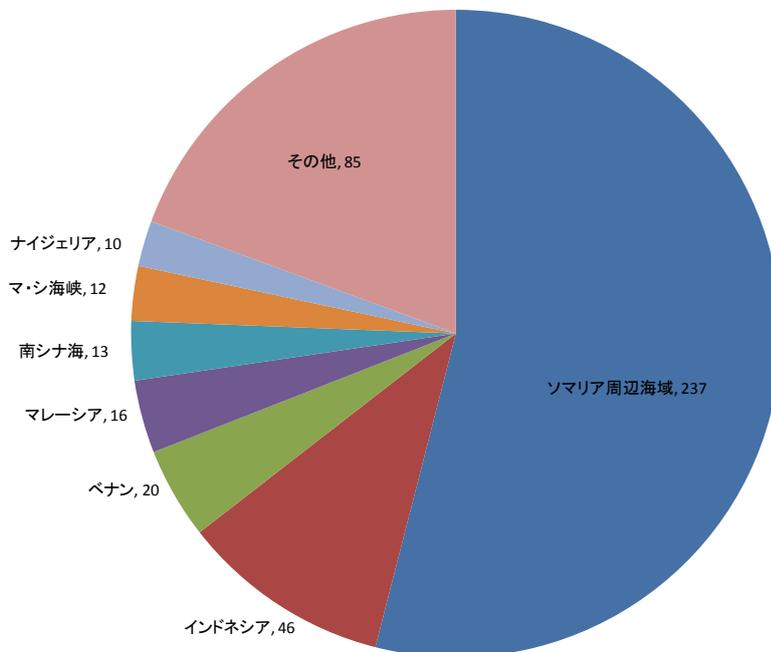
一方、バングラデシュでは、バングラディッシュコーストガードの警備により、チッタゴン港での装備強盗事案が前年の２３件から１０件に減少しています。

注) 国際海事局（ＩＭＢ）は、国際貿易等に関する取引慣習の統一化等を行う民間団体である国際商業会議所（ＩＣＣ）の専門部局であり、海賊など海事関係の犯罪に対する防止対策等について、独自に情報を収集し、その分析等を通じて、広く海事関係者に助言を行っている機関です。

世界における海賊等事案の発生件数の推移



海域別の発生状況(2011年)



- (注)
- ・マ・シ海峡及びソマリア周辺海域の件数は、それぞれ東南アジア、アフリカの内数である。
 - ・2000年から2008年までのソマリア周辺海域の件数は、ソマリア及びアデン湾・紅海の件数の合計。
 - ・2009年より、IMBの年次報告書における整理から、ソマリア周辺海域の件数は、ソマリア及びアデン湾・紅海の件数にアラビア海、インド洋、オマーンにおける海賊事案をソマリア周辺海域の海賊事案として計上している。